

平成 25 (2013)年 10月 12日

俳句会 於：そば徳 参加8名

手に触れし秋の七草万葉集

船矢深雪

ホーム入り決めたる友や暮の秋

木宮節子

ななかまど郵便局の灯の消えて

船矢深雪

鳥こぶて刈跡赤き蕎麦畑に

松原智津子

星飛ぶやファン・ゴッホの左耳

上澤孝二

秋暑し最初で最後の伊勢詣で

木宮節子

杉野一博選

バスの裾洗はれてゐる菊日和

上澤孝二

風運ぶ遠き晩鐘草の紫

松原智津子

リニア行く東海道線芭蕉の忌

木宮節子

コスモスは言ひ分があり言はずなり

上澤孝二

豆穀を焚く火さよなら豊の秋

松原智津子

泪夫藍や朝餉と共に五十年

船矢深雪

遙かなる北方四島霧深く

山本俊郎

黄葉や千里離れし青い空

森山圭悦

一山ときょうも借り切り蝉しぐれ

伊東次雄

風とまる地球岬に赤蜻蛉

山本俊郎

落日の地平線はるかに蕎麦の花

伊東次雄

白煙の昭和新山ななかまど

森山圭悦

檸檬香のワイングラスで解纜す

山本俊郎

残暑なり汗に気づかひ文を書く

森山圭悦

どかまでが海どこよりが秋の空

伊東次雄